

平成28年2月23日

投資者の皆様へ

T&Dアセットマネジメント株式会社

**「T&Dハイブリッド証券ファンド限定追加型1405」  
2016年2月22日決算の分配金について**

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は弊社の投資信託に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社が運用しております「T&Dハイブリッド証券ファンド限定追加型1405」(以下、「ファンド」ということがあります。)につきまして、2016年2月22日決算の分配金を下記の通りご案内申し上げます。

今後ともお引き立てを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

■ 第3期分配金 (1万口当たり、税引前)

ファンド名	分配金
T&Dハイブリッド証券ファンド限定追加型1405	70円

- ・ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。
- ・ 分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・ 詳細につきましては3ページの「分配方針」もしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「分配方針」をお読みください。

■ 2015 年 8 月 21 日～2016 年 2 月 22 日の運用経過 (第 3 期)

【市場概況】

当期のハイブリッド証券市場では、主要国の金融政策の方向性、原油価格や新興国経済の動向などに基づく市場参加者のリスクオフ姿勢の度合いが、主な変動要因となりました。

2015 年 9 月は、中国やブラジルなどの新興国経済の先行きに対する不透明感の増大、独フォルクスワーゲン社の排ガス不正問題やスイスの資源大手グレンコア社の債務削減計画に対する懸念を受けて各々の株価が大きく下落したことなどから、ハイブリッド証券市場でも売り圧力が強まりました。10 月と 11 月には、米国経済の順調な回復や ECB(欧州中央銀行)による追加金融緩和期待などから、総じて堅調な動きを示しましたが、12 月に入り、期待外れの ECB の追加金融緩和策や、OPEC(石油輸出機構)総会での減産見送りなどを背景に、ハイブリッド証券市場の先行きに対する懸念が増幅しました。加えて、米国の利上げ開始などを受けて、市場参加者がリスクオフ姿勢となり、ハイブリッド証券市場も全体的に軟調な地合いとなりました。2016 年 1 月以降も前年を通して周期的に噴出した懸念材料(中国経済に対する不安や原油安等)が再燃し、リスクオフ姿勢の度合いが強まりました。また、コモディティや新興国に対するエクスポージャーが相対的に大きい金融機関や国内の不良債権が増加していると報道されたイタリアの銀行が発行するハイブリッド証券に下方圧力が強まりました。

ハイブリッド証券の中では、比較的資本性の高い AT1 証券(バーゼル III において「その他 Tier1 資本」に分類)のボラティリティが高まりましたが、バーゼル II 対応のハイブリッド証券市場への影響は限定的でした。銀行に対する規制として、FSB(金融安定理事会)から TLAC(世界的に金融システム上重要な銀行に対する総損失吸収力に関する規制)の最終案が発表され、債務の優先劣後構造に注目が集まりました。また、EU(欧州連合)の銀行再生・破綻処理指令が 2016 年 1 月 1 日までに域内の国ごとに法令として完全実施されましたが、フランスではシニア債と劣後債の間に位置する新たな債務クラスの創設が検討され、イタリアやポルトガルでは国内の問題行に対して債権元本の削減を含む独自の破綻処理が実施されたように、各国で対応の違いが見られました。

【運用概況】

当ファンドは、主要投資対象である担保付債券が投資を行う外国投資信託を通じて、世界を代表する銀行及び保険会社が発行するハイブリッド証券を組み入れており、外国投資信託におけるハイブリッド証券の組入比率を高位に保ちました。銘柄選択にあたっては、国や通貨及び業種(銀行と保険)などで分散を図っています。当期の基準価額の前期末比騰落率は、約▲3.8%(分配金込みベース)となりました。組入銘柄の中では、一部を除き欧州金融機関の発行するハイブリッド証券のパフォーマンスが堅調となる中、米国の利上げの影響を受けて米国金融機関のハイブリッド証券は軟調に推移しました。

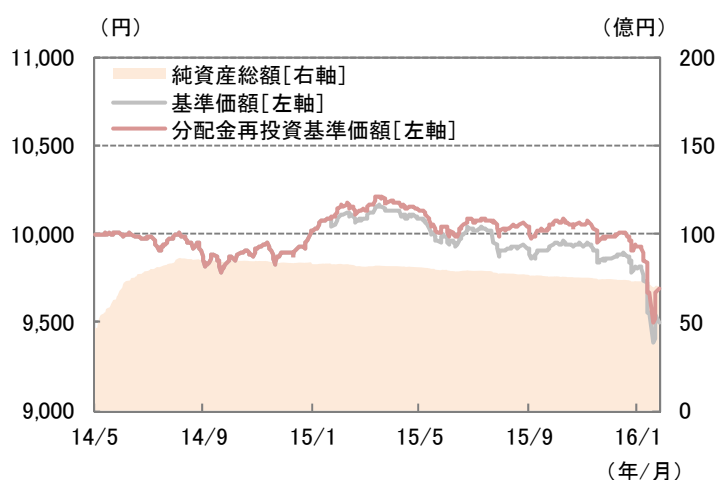
ハイブリッド証券市場は全体的にボラティリティの高い値動きを示しましたが、当ファンドの組入銘柄が初回繰上償還日までの期間が比較的短いこともあり、基準価額は 10 月以降 12 月の米国利上げ実施日までは比較的落ち着いた動きを見せました。利上げ以降は、市場参加者のリスクオフ姿勢の強まりや一部の銀行のファンダメンタルズに対する不安を告げる報道から下落に転じました。2 月に入ってから、ハイブリッド証券市場では全体的に、市場参加者のリスクオフ姿勢が一段と強まり、流動性がさらに低下したことなどを受けて、AT1 証券や欧州周辺国の銀行が発行したハイブリッド証券を中心に価格の下げ足が速まりました。このような市場動向から基準価額が一段と下落しましたが、当ファンドに実質的に組み入れられている銘柄は、信用格付や流動性等が比較的優れており、価格の下落が相対的に小幅に留まりました。

### 【今後の運用方針】

ハイブリッド証券市場においては、主要国の金融政策及び新興国経済やコモディティ市況の動向が注目されます。ハイブリッド証券の新規発行ペースが減速すると予想される中、大手金融グループのバランスシートの健全性や市場参加者のリスクオフ姿勢の度合いが重要なポイントとなると考えています。当ファンドでは、引き続き主要投資対象である担保付債券が投資を行う外国投資信託を通じて、世界を代表する銀行及び保険会社が発行するハイブリッド証券の組入比率を高位に保つことで、相対的に高い金利収入の獲得及び信託財産の成長を目指して運用を行います。外国投資信託においては、組入銘柄の価格や信用格付の動向、発行体金融機関の株価やクレジット・デフォルト・スワップ(CDS)スプレッドの水準等を継続してモニタリングします。外国投資信託で保有するハイブリッド証券については、満期日(繰上償還日を含む)までの保有を基本として運用します。

### ■ 基準価額の推移 (2014年5月30日(設定日)～2016年2月22日)

- ・ 分配金再投資基準価額は税引前分配金を全額再投資したものと計算しているため、実際の受益者利回りとは異なります。基準価額および分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後です。



### 【直近5期の分配実績】

	決算日	分配金
第1期	2015/2/20	50 円
第2期	2015/8/20	70 円
第3期	2016/2/22	70 円
第4期		
第5期		
設定来		190 円

\*1万口当たり、税引前

**2016/02/22 現在**

基準価額	9,500 円
純資産総額	70.2 億円

### ■ 分配方針

毎決算時(年2回、2月および8月の各20日。休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。

\* 将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

以上

当資料はT&Dアセットマネジメントが投資者の皆様への情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したものです、その正確性・完全性を保証するものではありません。

## ファンドのお申込みに際してのご留意事項

**「T&Dハイブリッド証券ファンド限定追加型1405」は、信託約款の規定に基づき、平成26年8月30日以降、購入のお申込みはできません。**

以下のリスクは、投資信託説明書(交付目論見書)に記載されているリスクを要約したものです。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

**ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。**

### ◎ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクについて

「ハイブリッド証券の価格変動リスク」「信用リスク」「流動性リスク」「為替変動リスク」

- ・ 基準価額の変動要因(リスク)は、上記に限定されるものではありません。

### ◎その他の留意点

#### ○ 分配金に関する留意点

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかつた場合も同様です。

- ファンドは、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

- ハイブリッド証券に関する留意点

- コデイス-リクソー・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド連動担保付債券に関する留意点

## ファンドの費用

### ■投資者が直接的に負担する費用

信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に以下の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。	
	換金申込受付日	信託財産留保額の率
	平成 27 年 8 月 31 日まで	3.0%
	平成 27 年 9 月 1 日から平成 28 年 8 月 31 日	2.4%
	平成 28 年 9 月 1 日から平成 29 年 8 月 31 日	1.8%
	平成 29 年 9 月 1 日から平成 30 年 8 月 31 日	1.2%
	平成 30 年 9 月 1 日から平成 31 年 5 月 31 日	0.6%
	平成 31 年 6 月 1 日以降	0% (なし)
<p>信託財産留保額は、主な投資対象である担保付債券の実質的な換金手数料*に充当されます。        繰上償還が決定した場合でも、担保付債券の実質的な換金手数料*を支払う必要がある場合には上記信託財産留保額が差し引かれます。        ※ 上記の実質的な換金手数料は、担保付債券の売却時に担保付債券の時価から差し引かれ、担保付債券の売却価格に反映されます。</p>		

### ■投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p>毎日、ファンドの純資産総額に年 0.8964% (税抜 0.83%) の率を乗じて得た額とします。        ファンドの運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期末または償還時にファンドから支払われます。        その他、担保付債券の発行費用等*が年 0.80%程度、担保付債券が投資対象とする外国投資信託の信託報酬等*が年 0.30%程度かかります。        実質的な費用:年 1.9964% (税抜 1.93%) 程度        ファンドが投資対象とする担保付債券の発行費用等、担保付債券が投資対象とする外国投資信託の信託報酬等を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。        また、別途 固定費*および担保管理費用等*がかかります。        ※ これらの費用は、担保付債券の時価に反映されます。</p>
その他の 費用・手数料	<p><b>【監査費用】</b>        毎日、ファンドの純資産総額に年 0.00864% (税抜 0.008%) の率を乗じて得た額とし、ファンドでご負担いただきます。  <b>【その他】</b>        組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、組入資産の保管に要する諸費用等をファンドでご負担いただきます。これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。</p>

\*上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

\*詳細につきましては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をお読みください。